



ミクロネシア連邦訪問 2015年9月17日発9月25日帰国 第67次訪問団
紀行記 (1/3)

9月17日21:20発UA874便にて、出発です。今回は、コスラエ島のマイクロ水力発電機設置に関する件とミクロネシア連邦支部の運営委員会の開催、そして会員の皆さんから支援頂いた台風災害の支援金の譲渡です。

まずは、17日18:00成田空港第2南ウイング・Eカウンター前の集合です。訪問団メン



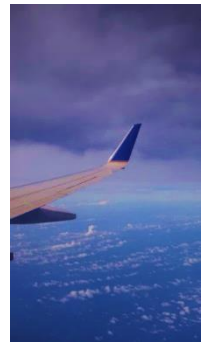
バーは当初予定(5名)されていたが次回に変更になる等、3名となりましたが、元気良く行こうとなりました。

今回で3回目となる岩崎昇さんと桜井副会長、川嶋の3名です。



出発間際に秋永拓郎さんから朗報が入りました。それは桜井さんがポナペで倒れたとき(7年前)の担当医・スーザン先生がジェネシス病院に帰任されたとの情報です。桜井さんが前々回訪問時(5年前)に支援して頂いた方々に御礼参りをした折に唯一お会いできなかった(一番お礼の言いたかった)方です。

定刻通り、成田を出て、定刻にグアム空港に到着です。途中台風の影響も心配しましたが、それ程ではなく無事到着です。グアム空港でのトランジットは、UAクラブ



に何がしかを払い、出発までゆったりと過ごし、18日朝8:20発のグアム発UA155便に搭乗しました。

成田空港でもそうでしたが、車椅子での移動に切り替えての行動は、“お陰様”で3人ともスムーズな“旅”となりました。



ポンペイ空港まで、チューク空港を中継に航程が進み、ミクロの空を飛んでいることで皆さん

浮き浮きしている様子です。チューク空港では、相変わらず降機客が多く、機内はやや閑散とします。降機された皆さんは、殆んどがスキューバダイビングを愉しむのでしょうか。機内での安全チェック作業も以前の様な厳格さは無くなり(手慣れたのか)機内トランジットとなります。



Chuuk 空港に着陸する時は、変わらぬ魅力を放っているチュークラグーンを眼下に見ます。どれほど観て来たか、桜井さんは15回以上との事、ただ降り立って島に入るのは、8年以上の空白があると・・・勿論、ミクロネシア連邦のAMD事務局長として、ポンペイに滞在していた為もあります。勿論、チュークブランチ・チーフの Mr.Gradvin とは旧知の仲です。

チュークラグーンについては、後程ご案内します。取り敢えず、写真をご覧ください。



着陸寸前 揺れもせず着陸

ポンペイに向う 離陸直後
空港ターミナルとゼイビヤ高校方面の山並み

荷降ろし作業 機械化が進んできました



チューク空港を離陸後、だんだん雲行きが怪しくなりました。結構、揺れて揺れて。機長アナウンスは、“ベルト締めよ”、しかし機内サービスは続行でした。ポンペイ空港には、見慣れたソケイロックを右に見ての着陸ではなく、反対側からの空港進入で着地まで揺れている状況でした。勿論雨です。





着陸後、車椅子の準備を機内で待ち、成田空港で手配された通り迎えてくれました。感謝



パスポートコントロールもスムーズに進み、荷物をピックアップをして、税関も通り外へ。
秋永好二さん(ミクロネシア連邦AMDプレジデント)が出迎えて頂き(泊まるホテルのオーナーとしても出迎え)ました。



PCRホテルに着いて、荷を解き、秋永方子さんに挨拶をし、桜井さんは久しぶりのPCRレストランの皆さんと談笑。

又秋永茂美さんが続けてい



る畑に行き、持参した土壌pH測定器を使い、野菜毎の土の数値測定をしました。

pH7~5.5と出ました。凡そ野菜に合わせての数値で、今後は適時石灰や肥料のやり過ぎない事等、素人助言などをしました。八街の畑での経験が生きました。測定器と農業の本をお土産として謹呈しました。



秋永宅を後にして、日本大使館を訪問。コスラエのマイクロ水力発電機の件について、当方が纏めた4区分の工事・手配案の中身を資金スキームの趣旨と突き合わせながら問題点を洗い出しました。準備した計画案は、再度日本に持ち帰り、再構築することとなりました。

夕食は、AMD-FSMメンバーとの会食となりました。やはり旅の疲れも出たところ、マミーズクラブを少し覗き、話題作りも有之、又ポンペイ島の一周計画も決めて、就寝。

お疲れ様でした。ポンペイ島のAMDの皆さんありがとうございました。

第3日目 ポンペイ市内・コロニアから、島一周。

朝食を摂り、出発準備です。持参した“菩提樹の蜂蜜”をトーストにつけた岩崎さんから、“旨い”との感想。遥々持参した甲斐があったというものです。





秋永雄三さんの車をレンタカーとしてお借りして、島一周です。今は無くなってしまいました“ビレッジホテル”の入り口付近を通り、ナンマドール方面の道を進みます。途中のガソリン補給は、定量容器に入れられているガソリンを如雨露で給油です。結構、給油する車も多く、家族連れの車でした。子供たちの表情は明るい。家族数も多い。



ポンペイは川筋が40以上の事。川は、最終的にマングローブを群生させる土を運び、この島の形を作るマングローブが魚や蟹、ウナギ類などの生息を支えます。珍しい話を聞き込みまし



た。鰻もどき（ウナギ類）がマングローブの木を登り、マングローブに上ってきている小さな蟹を捕食するとの事。現場を見てみたいものです。

左の写真のアウトリガータイプのカヌーは、引き潮で海に繋がっている水路の底に座っていますが、満ち潮になると海へのこの通路を通り、漁に出かけることが出来ます。川筋の海に繋がっているところの風景。

下の写真は、小さい（1cm程度の長さの）唐辛子です。土地の人はシェレと呼んでいます。このシェレは強烈で軽いひと噛みするだけで、半日程度その辛さと言うか痛さが残ります。このシェレをシェレに付く黴が発生しない程度の量の塩と塗します。ポンペイの夫々の家庭の味ともなるこれ



は、御存じの方もいらっしゃるかもしれませんが“シェレ”と呼ぶ調味料です。刺身に良し、カツにも良し、煮魚にも良し等々、結構いけます。写真のお母さんが、丁寧に説明をしてくれました。子供達は元気です。



このシェレは赤くなります

岩崎さん、試食しましたがその辛さに吃驚。桜井さんは舐めてビックリ。昼飯が食べれるか・・・

この場所は、SEIボタニカル農園を過ぎたところで、車を道脇に留めて、ゆったりの時間を過ごしました。



治療中、桜井さんを診ていましたから、初めてではないのですが、意識ある桜井さんとは初めてではあります。

入院から、医療ジェットで成田に出発するまでの治療の話等して頂きました。その間桜井さんは、感に堪え切れず感涙の場面もありました。

そして、ポンペイの人達と日本大使館、F S M外務大臣、弟：桜井英二さん等のサポートで日本に戻り治療できたことなどの話となりました。

サポート頂いた方々は、秋永家一家総出のサポート、桜井さんの主治医の太田先生、日本の佐藤大使、シンガポールの医療ジェットの手配中継の中国女性、救出費用の当面立て替えもして頂いた

阿部前会長と奥様、日本の連絡窓口・大本営と言われた女性、元航空自衛隊の空幕長の鈴木さん、J I C A事務所の濱田さん、頻繁に見舞いに来てくれた左近允さんを初め多くの方々、ローリン外務大臣、医療ジェットの医療メンバーとパイロット等々の方々でした。



帰国後のリハビリのサポート、そ

して本人自身の努力の甲斐があり、今回復帰後、3回目（5年前、2年前）のミクロネシア連邦訪問です。この場を借りて、当時最大限の支援を頂いた前テレコム社CEO秋永拓郎氏には、感謝の誠を捧げます。

感激の場を終えて、大切な余韻を抱いて、就寝です。

以上 第1報終わり